

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月6日
【四半期会計期間】	第87期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	小倉クラッチ株式会社
【英訳名】	OGURA CLUTCH CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小倉 康宏
【本店の所在の場所】	群馬県桐生市相生町二丁目678番地
【電話番号】	(0277) 54 - 7101 (大代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員（経営管理本部担当） 河内 正美
【最寄りの連絡場所】	東京営業所 東京都港区浜松町一丁目10番12号 第一共栄ビル
【電話番号】	(03) 3433 - 2151 (大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員（営業本部長） 猪越 義彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第2四半期連結 累計期間	第87期 第2四半期連結 累計期間	第86期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	18,669	19,294	36,998
経常利益 (百万円)	660	567	1,041
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	318	355	410
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	287	466	1,860
純資産額 (百万円)	14,753	16,639	16,323
総資産額 (百万円)	38,976	41,182	42,706
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	21.27	23.73	27.39
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	37.13	39.56	37.48
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,170	86	1,834
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	500	789	1,233
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	308	691	23
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	5,954	5,042	6,543

回次	第86期 第2四半期連結 会計期間	第87期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	13.43	17.22

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国を中心とした先進国では比較的堅調に推移したものの、中国経済の減速やその影響による新興国経済の減速が顕著となり、世界経済の下振れリスクが高まりました。加えて米国利上げ観測も予断を許さず、先行き不透明感が急速に増しました。

一方、日本経済においては円安・株高基調が持続し、企業業績の改善がみられるものの、個人消費の回復は依然弱く、全体として景気は横ばいの状況が続きました。

このような状況のもとで、当社グループはグローバル市場で積極的な販売活動を行ってまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、19,294百万円と前年同期と比べ624百万円の増加（前年同期比3.4%増）となりました。これにより、営業利益は602百万円と前年同期と比べ29百万円の増加（前年同期比5.2%増）、経常利益は為替差益の減少等により567百万円と前年同期と比べ93百万円の減少（前年同期比14.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は355百万円と前年同期と比べ36百万円の増加（前年同期比11.5%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

輸送機器用事業

輸送機器用事業においては、北米の販売は堅調に推移してまいりましたが、欧州の販売は長引く景気低迷の影響を受け苦戦を強いられ、アジアの販売も中国の景気減速の影響を受け弱含みで推移しました。

その結果、売上高は13,772百万円と前年同期と比べ185百万円の増加（前年同期比1.4%増）となり、セグメント利益は534百万円と前年同期と比べ113百万円の増加（前年同期比27.0%増）となりました。

一般産業用事業

一般産業用事業においては、モーター、印刷・製本、昇降・運搬、金属工作業界向けの販売は増加となりましたが、OA、変・減速機業界向けの販売は減少となりました。

その結果、売上高は4,829百万円と前年同期と比べ228百万円の増加（前年同期比5.0%増）となり、セグメント利益は11百万円と前年同期と比べ78百万円の減少（前年同期比86.8%減）となりました。

その他

その他では、売上高が692百万円と前年同期と比べ211百万円の増加（前年同期比43.9%増）となりました。セグメント利益は63百万円と前年同期と比べ17百万円の増加（前年同期比39.2%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は86百万円(前年同期は1,170百万円の獲得)となりました。主な増加要因は税金等調整前四半期純利益619百万円、減価償却費636百万円等であります。一方、主な減少要因は仕入債務の減少額974百万円、法人税等の支払額411百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は789百万円(前年同期比289百万円増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出840百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は691百万円(前年同期比382百万円増)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1,243百万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は193百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,533,232	15,533,232	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	15,533,232	15,533,232	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	15,533,232	-	1,858	-	1,798

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
第一共栄ビル株式会社	東京都港区浜松町1-10-12	2,196	14.13
小倉クラッチ取引先持株会	群馬県桐生市相生町2-678	1,184	7.62
小倉 康宏	東京都港区	818	5.26
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2-12-6	742	4.77
株式会社群馬銀行	群馬県前橋市元総社町194	739	4.75
有限会社アイ・オー	群馬県桐生市相生町2-678	682	4.39
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	586	3.77
高橋 正義	東京都世田谷区	430	2.76
小倉クラッチ従業員持株会	群馬県桐生市相生町2-678	329	2.11
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町2-2-2	235	1.51
計	-	7,942	51.12

(注) 当社は自己株式を557千株所有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主には含めておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 557,000 (相互保有株式) 普通株式 17,000	-	単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,860,000	14,860	同上
単元未満株式	普通株式 99,232	-	-
発行済株式総数	15,533,232	-	-
総株主の議決権	-	14,860	-

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 小倉クラッチ株式会社	群馬県桐生市相生町 2-678	557,000	-	557,000	3.58
(相互保有株式) 信濃機工株式会社	長野県埴科郡坂城町 坂城1984-1	17,000	-	17,000	0.10
計	-	574,000	-	574,000	3.69

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,140	6,640
受取手形及び売掛金	11,043	11,021
商品及び製品	3,663	3,445
仕掛品	2,679	2,696
原材料及び貯蔵品	2,042	2,130
繰延税金資産	308	283
その他	1,036	929
貸倒引当金	40	33
流動資産合計	28,873	27,114
固定資産		
有形固定資産	11,358	11,543
無形固定資産		
その他	357	351
無形固定資産合計	357	351
投資その他の資産	注2 2,115	注2 2,173
固定資産合計	13,832	14,068
資産合計	42,706	41,182
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,951	7,940
短期借入金	9,642	9,053
未払法人税等	320	114
賞与引当金	297	309
事業構造改善引当金	99	67
その他	1,842	1,598
流動負債合計	21,153	19,084
固定負債		
長期借入金	3,527	3,711
繰延税金負債	371	362
役員退職慰労引当金	499	550
関係会社整理損失引当金	181	166
退職給付に係る負債	75	73
資産除去債務	18	18
その他	554	575
固定負債合計	5,229	5,459
負債合計	26,382	24,543

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,858	1,858
資本剰余金	1,844	1,844
利益剰余金	11,628	11,834
自己株式	346	348
株主資本合計	14,985	15,189
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	590	567
為替換算調整勘定	556	642
退職給付に係る調整累計額	127	109
その他の包括利益累計額合計	1,019	1,100
非支配株主持分	318	348
純資産合計	16,323	16,639
負債純資産合計	42,706	41,182

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)
売上高	18,669	19,294
売上原価	15,689	15,973
売上総利益	2,980	3,321
販売費及び一般管理費	注1 2,407	注1 2,718
営業利益	572	602
営業外収益		
受取利息	22	16
受取配当金	18	19
為替差益	91	-
不動産賃貸料	36	35
持分法による投資利益	34	-
その他	65	70
営業外収益合計	268	141
営業外費用		
支払利息	101	109
手形売却損	5	2
為替差損	-	27
その他	73	37
営業外費用合計	180	177
経常利益	660	567
特別利益		
国庫補助金	-	52
特別利益合計	-	52
特別損失		
関係会社整理損失引当金繰入額	46	-
特別損失合計	46	-
税金等調整前四半期純利益	614	619
法人税、住民税及び事業税	270	214
法人税等調整額	7	26
法人税等合計	262	240
四半期純利益	351	379
非支配株主に帰属する四半期純利益	32	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	318	355

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	351	379
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	141	23
為替換算調整勘定	239	92
持分法適用会社に対する持分相当額	2	-
退職給付に係る調整額	37	18
その他の包括利益合計	63	87
四半期包括利益	287	466
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	264	437
非支配株主に係る四半期包括利益	23	29

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	614	619
減価償却費	517	636
のれん償却額	2	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	3
賞与引当金の増減額(は減少)	4	12
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	-	25
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	19	2
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	17	51
関係会社整理損失引当金の増減額(は減少)	43	14
事業構造改善引当金の増減額(は減少)	64	25
受取利息及び受取配当金	40	35
支払利息	101	109
為替差損益(は益)	0	40
持分法による投資損益(は益)	34	0
売上債権の増減額(は増加)	205	21
たな卸資産の増減額(は増加)	133	82
仕入債務の増減額(は減少)	194	974
その他	260	150
小計	1,272	391
利息及び配当金の受取額	298	35
利息の支払額	101	102
法人税等の支払額	299	411
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,170	86
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,557	1,554
定期預金の払戻による収入	1,553	1,552
有形固定資産の取得による支出	500	840
有形固定資産の売却による収入	4	164
投資有価証券の取得による支出	1	55
貸付けによる支出	0	0
貸付金の回収による収入	8	1
その他	7	58
投資活動によるキャッシュ・フロー	500	789

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,801	3,955
短期借入金の返済による支出	2,758	3,925
長期借入れによる収入	400	790
長期借入金の返済による支出	507	1,243
自己株式の取得による支出	1	1
配当金の支払額	149	148
その他	92	116
財務活動によるキャッシュ・フロー	308	691
現金及び現金同等物に係る換算差額	97	66
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	263	1,501
現金及び現金同等物の期首残高	5,690	6,543
現金及び現金同等物の四半期末残高	注1 5,954	注1 5,042

【注記事項】

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
受取手形割引高	225百万円	140百万円

注2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
投資その他の資産	184百万円	184百万円

(四半期連結損益計算書関係)

注1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
給料手当	736百万円	810百万円
荷造運賃	349	413
賞与引当金繰入額	64	78
役員退職慰労引当金繰入額	20	51
退職給付費用	50	52

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

注1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	7,549百万円	6,640百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,595	1,598
現金及び現金同等物	5,954	5,042

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	149	10	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	149	10	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	輸送機器用事業	一般産業用事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,587	4,600	18,188	481	18,669
セグメント間の内部売上高又は振替高	18	2	21	-	21
計	13,606	4,603	18,210	481	18,691
セグメント利益	420	90	511	45	556

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防災関連業界向け等の輸送機器用事業および一般産業用事業以外の事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	511
「その他」の区分の利益	45
内部取引消去	21
棚卸資産の調整	30
減価償却費の調整	7
全社費用(注)	0
四半期連結損益計算書の営業利益	572

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	輸送機器用事業	一般産業用事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,772	4,829	18,602	692	19,294
セグメント間の内部売上高又は振替高	30	3	34	-	34
計	13,803	4,832	18,636	692	19,328
セグメント利益	534	11	546	63	610

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防災関連業界向け等の輸送機器用事業および一般産業用事業以外の事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	546
「その他」の区分の利益	63
内部取引消去	30
棚卸資産の調整	9
減価償却費の調整	12
全社費用（注）	0
四半期連結損益計算書の営業利益	602

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	21円27銭	23円73銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	318	355
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	318	355
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,984	14,977

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月6日

小倉クラッチ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 亨 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮一 行男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小倉クラッチ株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小倉クラッチ株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。